文書分類番号	00	09	03	002	永年	起案	平成	年	月	日	決裁	平成	年	月	日
議長	副議長	局長	次長	主査	主査	担当							文書取扱主任		

第 16 回 総務文教常任委員会 会議録

開催年月日	平成20年12月26日(金曜日)	開会9時59分	閉会11時55分
開催場所	第三委員会室		
出席委員	本間、三上、窪之内、関藤、大谷、井上 議長、委員外議員～清水	事務局	中嶋事務局長 田湯次長
欠席委員	なし		寿崎主任主事
説明員	別紙のとおり		
議件	別紙のとおり		
議 事 の 概 要	1 所管からの報告事項について		
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、すべて報告済みとした。		
	(1) 小学校女子児童自殺事件の訴訟について		
	(2) 学校評議員会議の意見提言について		
	2 その他について		
	学校評議員アンケート最終結果について資料が配付され報告された。		
	3 次回委員会の日程について		
	正副委員長に一任することに決定した。		
	上記記載のとおり相違ない。 総務文教常任委員長 本間保昭 ㊞		

平成20年12月25日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市教育委員会委員長 若 松 重 義

総務文教常任委員会への説明員の出席について

平成20年12月22日付け滝議第154号で通知がありました総務文教常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いいたします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いいたします。

記

滝川市教育委員会委員長の委任及び滝川市長の委嘱を受けた者

教育長	小 田 真 人
教育部長	高 橋 一 昭
教育部指導参事	早 瀬 公 平
教育部学校教育課長	吉 川 修
教育部学校教育課副主幹	杉 原 慶 紀
教育部学校教育課心の教育推進室長	水 林 俊 治
教育部学校教育課心の教育推進室主査	丹 那 暢 仁
教育部学校教育課主査	岩 田 肇

(総務部総務課総務グループ)

第16回 総務文教常任委員会

H20.12.26 (金) 午前10時00分
第三委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶 (委員動静)

1 所管からの報告について

《教 育 部》

(1) 小学校女子児童自殺事件の訴訟について

(資 料) 学校教育課

(2) 学校評議員会議の意見提言について

(資 料) 心の教育推進室

2 その他について

3 次回委員会の日程について

○ 閉 会

開 会 9 : 5 9

委員動静報告

副委員長

委員長遅刻。議長出席。委員外議員～清水。

1 所管からの報告事項について

(1) 小学校女子児童自殺事件の訴訟について

教育長
高橋部長
吉川課長
教育長
副委員長

(別紙資料に基づき説明する。)

(別紙資料に基づき説明する。)

(別紙資料に基づき説明する。)

(別紙資料に基づき説明する。)

裁判所からの訴状がまだ届いていないということで、新聞報道による情報をもとに説明していただいている。この後質疑を受けるが、そういったことを踏まえて質疑をしてほしい。ここで委員長と交代する。

委員長
窪之内

説明が終わった。質疑はあるか。

① 正式な訴状が届くのはいつごろと予想されるのか。その訴状が届いたらすべてを明らかにすべきだと思う。教育委員会がまとめた要旨だと、どこの部分が除かれたのかわからないので、後で問題にならないようにすべて出すべきだと思う。ただ子供の実名が入っているところについては考慮していただきたいと思うが、考え方を伺う。

② コメントを見ると、私たちとなっている。母親なのか大叔父なのか明確ではない。この母親と会ったときにどのような話をしたのか報告願いたい。

③ 私も何度か大叔父に会ったが、これを見ても、またその経過を見ても、遺族が解明したいと思っていることが、この裁判で解明されるとは余り思えない。遺族の思いとこの裁判はなじまないところがある。なぜ裁判に出ざるを得なかったのか。今まで対応してきた教育委員会としてどのようにとらえているのか伺う。

④ 関係児童は来春高校入試である。この前校長に会ったときに様子はどうかと伺ったら、報道機関の対応等は問題なく、子供の様子も普段と変わらないということだった。表面上は変わらないと思うが、目に見えない心理や子供に対するケアをどうしていくのか。改めてそうしたことへの対応を積極的に行うべきだと思うが、考えを伺いたい。

⑤ 今まで求められていた同級生の保護者との面談が可能となったが、質問状の内容はどういうもので、どういった回答をしているのか。その辺の中身を伺いたい。

⑥ 今まで一度も元担任と面会をしていないわけではないが、19年ころから求められていた元担任との面談については実現していないと思う。その辺の経過について伺う。

⑦ ことしの9月ころまで遺族と会っていたが、その段階でこういうことを予見させるようなことはあったのか。

教育長

① 正式な訴状はいつかということだが、裁判所のほうでまず内容審査をする。裁判に適するかどうかの審査を行った後に正式に受理をし、副本が市へ送付されることになると思う。多分証拠書類等もついていると思うので、実際にどれ

だけのボリュームになるのかは承知していない。裁判所はきょうが仕事納めなので、年明けには届くのではないかと思う。訴状が来た場合、実名の部分については配慮をさせていただくが、皆さん方にも配りたいと思っている。

② 私たちという表現だが、報道機関からいただいたものには当事者目録別紙のとおりと書かれており、その当事者と言われている者がだれなのかは私どもも把握をしていない。代理人としては弁護士3名である。代理人になれるのは弁護士だけということなので、そこに大叔父がどのような形でかかわっているのかは把握していない。母親とは4月6日の月命日に会っている。以前から母親に会わせてほしいとの話をしていたので、その前日に私のほうへ電話があった。会うことができるのでお参りに来ていただきたいということだったので、私と部長、課長がお参りを兼ねて会いに行った。ただ勤務の関係で休まれており、私どもが行ってから起きた状況だったので、それほど多くの話はできなかった。今回の件について委員会としておわびを申し上げ、お参りをさせていただいた。

③ これまで遺族が求めていたものと今回の裁判のかかわりだが、遺族と代理人がどういった話の中でこういうふうになったのかは承知をしていない。当然原告の意思だというふうに思うので、これまでの行動をどのように整理されるのかその推察は避けたいと思う。

④ 金曜日にテレビ報道があったので、その日のうちにスクールカウンセラーにも連絡をした。小学校6年生のときから児童、保護者とのかかわりを持っているカウンセラーがいるので、待機をしていただいた。土日には校長、教頭も待機し、市で雇用しているスクールカウンセラーもサポートをしていただくような対応をとっている。長期休業に入るので、担任等は家庭訪問をするなど常時子供たちの把握に努めてほしいということのを要請し、新たな被害者を出さないよう取り組みたいと思っている。

⑤ 質問状の内容だが、主に当時の内容である。遺族が直接児童等に話を聞いた部分と私どもの報告書の異なる部分についての確認のような内容がほとんどであり、各家庭によりさまざまである。その内容については裁判にかかわる部分もあるかもしれないし、遺族側との争点になると思われる部分もあるので、詳細については訴状が届いたら書かれている内容と私たちが記載している内容のどこが一致していてどこが不一致なのかを確認する。私たちが押さえている情報と不一致の部分についてだが、原告側が独自に児童生徒から聞き取りをした中で、これまでに遺族との会話において判明しているところもある。まずはどの内容に基づくものなのかを整理したいと思う。

⑥ 元担任との面談の関係だが、事件直後から要望があった。昨年12月には、市教委に言ってもらちが明かないので、道教委へ職務命令として担任との面談を実現させてほしいという要望が出されている。以降元担任との面談については道教委の空知教育局が窓口になるということで整理をした。結論的に道教委としては職務命令としてはできないということだが、面談をしないことにはこの問題は解決しないだろうという認識があるので、教育局のほうからは適宜その元担任に対して遺族の要望に応えるようにという指導はしてきたと伺っている。

⑦ 直接面談をしたのは9月が最後になるが、それ以降は課長との電話でのやりとりになる。何度か電話を差し上げたが、なかなか出ていただけなくて、10

窪之内

月に電話したときには少し体調がすぐれないという話だったので、体調が回復したときにまた連絡をいただきたいということで終わっている。この間訴訟に向けた話というものは一切なかった。

① 訴状が届けば委員会にも全部提供していただけるという確認はできた。母親との面談について言えば、おわびをただけで、今回のことをうかがわせるような要望や事件の解明についての話はないと理解してよいか。

② 今回の裁判にもかかわると言われている遺族と市教委との認識の違いや子供たちに直接聞き取りをしたときの違いを整理した段階で委員会に報告していただけるのか。

③ 担任との関係について、職務命令は出せないの指導をしてきたが、現状は会っていないと理解してよいか。

④ 調査報告書の中身は、今回の訴訟で義務違反としているところをほぼ認めている内容になっているが、今の時点でこの部分の見解として出せるものがあるれば伺いたい。

⑤ 国家賠償法に基づく請求についてだが、仮に道と市の裁判が決まった場合、道が幾らで市が幾らという形で提示されるものなのか。その辺をどのようにとらえればよいか伺う。

教育長

① 母親と会ったときには、真相解明を求める言葉というものは直接はなかった。

② 遺族と市教委の認識の違いについては、当然委員会にも報告等をさせていただく。

③ 元担任との面談は実現していない。

④ 報告書の内容の見解だが、どこの部分が争点になるのかを整理をしなければならぬと思う。それぞれの義務は法的な解釈としてどこまでなのか、そしてその義務に違反したかどうかというのが大きな争点になると思う。また予見の可能性の問題なども争点になるのではないかと考えている。事後の部分については、私たちは隠ぺいという形ではとらえておらず、さまざまな残された児童への配慮などもあり、対応に慎重を期し過ぎた。あるいは遺族との対応にちゅうちょする部分があったというのは素直に認めている。やはり反省すべき点は、反省すべきと考えている。事後の部分について恐らく隠ぺいしようとする意思があるのかないのかということが争点になるのではないかと考えている。私の個人的な見解として理解いただきたい。

⑤ 敗訴した場合、総額が裁判で示された後、道と市の協議となるのか、あるいはそのかわり具合を見て、裁判所が市は幾ら、道は幾らと決めるのかは判例等を調べていないのでまだ不明である。

窪之内

今教育長は隠ぺいという形ではとらえていないと言ったが、私は率直に隠ぺいしていたとずっと思っていた。だから責任をとってああいうことになったと思っていた。そこを反省したのだろうと思っていた。でもその認識は違い、今そこを認めると裁判に影響があるから隠ぺいということを認めたくないと言っているのだと思う。遺書の内容を最初から公開しなかったというのは隠していたということだから、隠ぺいではないと言えば、かえって批判があるような気がする。全国的に注目する人たちにどう答えていくのか、その辺の認識をどうしていくのが裁判をやる上でもう少し検討を要するのではないかとと思うが、いかがか。

教育長

先ほどの隠ぺいという認識をしていないと言ったことだが、これは調査報告書の段階でも事務的に不適切な部分があり、結果として隠ぺいととられてもやむを得ない事案だったというコメントを出させていただいている。ただ隠ぺいしようとする意思があるかどうかについては、これからの裁判ということになる。その部分を争点にするかしないかの問題は弁護士とも十分に相談をしたいと思っている。先ほどの話は私の個人的な考えであり、これで裁判に臨みたいという姿勢ではない。どこが争点かという点で、そういったところにあるのではないだろうかと思っているということなので理解願いたい。

委員長
大谷

他に質疑はあるか。

① 一番心配なのは、デリケートな時期にこういうことが起きた中3の子供たちのことである。いろいろと対処をしていただいているが、その配慮についてはこれからも目に見えない形でいろいろあると思うので、かなり慎重に扱っていかねばならないと思う。親も含めてよろしくお願ひしたい。

② 学校安全会からこういう事故があった場合の補償を最高額で出しているという話を聞いていた。その金額を教えてください。

③ 平成20年10月の面談のときには、訴訟についての話はなかったとの報告だったが、いじめを受けた親の会のようなところで活動しているような動きがあると聞いたことがある。その辺の状況がわかれば教えてください。委員会として訴えられるということも予想していなかったのか伺う。

教育長

① 引き続き慎重に行いながら万全を期したいと思う。

② 学校安全会についてだが、2,800万円が死亡見舞金として支払われている。なお掛金については、教育委員会が半額、保護者が半額という負担である。

③ 10月の面談の時点で訴訟の話はなかったのかということだが、この間何度か話をしてきた。なかなか事態が動かないということで、裁判ということではなく、第三者の力を借りてみてはということでも話をさせていただいたり、さまざまな形で何とか進展しないものかと提案をしてきた。結果として進展しなかったもので、今回の提訴となったと思っている。これまでの話では、裁判を前提にこういうものを進めているということも遺族から伺ったことはない。また昨年12月くらいの時点では属している団体等があったようだが、それ以降どのような形になっているか、今どのような団体に属しているかは十分承知をしていない。

大谷
委員長

なかなか進展しないので、裁判のことを教育委員会から話したということか。

そういうことではない。答弁整理をするため休憩する。

休 憩 10:55

再 開 10:57

委員長
井上

再開する。他に質疑はあるか。

① この問題を議会でもずっとやってきたが、いじめではないという報告がされてきた。NHKのトップニュースにもなって世間を動かしている。今回そういう背景があり、裁判に持ち込んできたと思う。弁護士と親との結びつきについては大きな団体が動き出しているように感じる。こういう裁判に持ち込もうとしている動きなどを全く感じなかったのか。裁判に持っていかれたことに対して、感覚的にどうなのか。

② 市と教育委員会との関係だが、教育委員会の独立性ということがうたわれている。市が訴えられるのか、教育委員会が訴えられるのかという問題がある。

訴状そのものが教育委員会に対してなのか、矛先が全部市に向いているのかをきちんとしなければならないと思うが、いかがか。

教育長

① 先ほども申し上げたとおり、遺族と話をしていて、裁判はむしろ否定的な見方をしているほうが多かったように思っていた。今回3名の弁護士が、どういうきっかけで遺族の方とこうなったのかは承知していないし、驚いたという感覚である。

② 市と教育委員会との関係についてだが、さまざまな判例等を見ると、設置者としての自治体である市町村が訴えられるというケースがほとんどである。ただ訴状の中には、市教委、学校における責任の追及、また最終的に学校設置者としての責任、給与支払者、任命権者ということでの被告市というふうになっているので、その被告としての適格性があるかないかという部分も含めて、裁判所のほうの判断になると思う。

委員長

他に質疑はあるか。

井上

新聞には、道と市が訴えられているとなっているが、いじめにかかわった人の保護者などに弁償は求めているのか。

教育長

報道機関からいただいた中に、当事者という欄がある。そこには被告市ということで、学校設置者であり、校長や教員、あるいは教育委員会の職員のいずれも被告市の公務員であるということで市への訴えとなっている。また被告の道については、職員の費用負担は都道府県の事務なので道ということになっている。保護者や児童生徒に対してではない。

井上

そういう法律的な意味での当事者という意味はわかるが、本当の当事者である現場の教員や校長の監督責任に及ぶような訴状になっているのか。

教育長

訴状の内容については、そこに記載しているように個別の義務違反について言っているので、及ぶものだと思う。被告市という中では、校長以下の教諭、教育長、教育長以下の委員という書き方になっている。教育長以下の委員というところについては、教育委員を指しているのか、職員を指すのかはわからないが、そういう表現になっている。さまざまな事象の中で児童生徒の名前は出てくるが、個人として出てくるのはそれだけであり、個人の保護者、児童生徒は出てこない。

井上

慎重にやってほしい。

委員長

他に質疑はあるか。

窪之内

なぜ裁判なのかしっくりしない。訴状を撤回する、取り下げる可能性がないわけではないと思う。例えば元担任教師と会う場をきちんと設けたりすることで、この裁判を回避しよう、対応しようとするのは全く考えていないのか。裁判を被告としてどうするべきかという道しかとらないということか。私はお金ではないと思っているので、訴状を取り下げる可能性がないわけではないと思っている。そういう道を探らないのか。

教育長

弁護士とよく相談したいと思う。にわか勉強をしてきたが、多分口頭弁論があり、訴えがあり、被告側がその請求を認めるのか、棄却の申し立てをするのかという判断をしなければならないと思っている。争点の整理をしてからその辺も部分的に認めるのか、全部を認めるのか、全部を否認するのかなどをこれから相談させていただきたい。個人的意見になるが、いたずらに長くするのもどうなのかとも思っているし、いろいろな社会的影響なども総合的に判断をしなければならないと思っている。

窪之内 裁判をしないという道はゼロではなく、そういう道を探るといふ考えもあると受けとめていいのか。

教育長 争点の整理をしてみないとどういった方法を探るのかについては、今の段階で答えられない。

委員長 他に質疑はあるか。

大谷 先ほど電話があったという報告だったが、その内容について伺う。第一小学校にも電話があったそうだが、内容を聞かせていただきたい。

教育長 報道では学校名が出なかったの、多分電話帳か何かで調べてかけてきたと思われる。おまへの学校なのかというような内容だったと校長から聞いている。ただほかの学校にはそういった電話はなかった。委員会に寄せられた電話については、当時の安西教育長が映像として出たので、そういう方は辞めさせたほうがいいのではないかという意見だった。相手の話を真摯に聞いていたということである。

委員長 他に質疑はあるか。

清水委員外議員 ① 遺族とのこれまでの経過概要を示されたが、この件は訴状の概要でも言われているように、いじめを防止できなかったのか、予見できなかったのかということについて、どれだけ情報を得てきたのか、渡してきたのかということが大きな争点になると私は思う。そういう点で今回の報告に当時の校長以下、教師との全容解明についての経過が書かれているのかと思えば、書かれていなかった。12月5日以降は、全く解明の活動をしてこなかったのか。それとも今回は報告されていないということなのか。

② 関係した学年への対応のことが話されていたが、4月からは高校へ行くので、高校でも対応しなければならない。聞くところによれば、報告書は2つあるようで、1つは12月5日、1年以上たち全国にいじめ報道がされたあとの報告書で、これは文科省の指導も受けてつくられた調査報告書である。もう1つは自殺を図った11日後に道に提出し、遺族には知らされていなかったという調査報告書である。この2つを中心に関係する中学校や高校へ配られていると聞いている。だれが見ても事実を正確に把握できるという点では12月5日の調査報告書を中心にして配り、余り誤解を招くような書類を中学校や高校には渡すべきではないと思う。私の認識が間違っているかもしれないが、いかがか。

③ 12月19日に報道されて以降、教育委員会として当時の担任や校長、教頭とどのような連絡をとったのか。また道教委とどのような連絡をとっているのか。

教育長 ① 学校関係者との接触状況だが、平成18年12月5日以降、校長、教頭とは接触がなかった。元担任については要望があり、先ほども申し上げたとおり、私も出向いて元担任と話したり、あるいは道教委からの働きかけもあったが、結果的には実現をしていなかったということである。千葉前室長、辰巳前部長、安西前教育長に対する面談の要望もあった。そのうち安西前教育長以外は、実現をして、それぞれ1度会っている。

② 平成18年12月5日の概要については、文科省の指導を受けているわけではない。道教委の支援を得て市教委がつくったものである。これは高校には配ってはいない。進学においてカウンセラーや中学校長とも相談をしながら、知らせる必要のある情報があれば、それは適宜判断をしていく必要があると思っている。

③ 12月19日以降の対応だが、元校長、元教頭、元担任がいる教育委員会の教育長にはこういうことがあり、新聞報道やテレビ報道があるという連絡はしている。一報は道教委から来たので、道教委とはこういう場合弁護士はどうなるのか、道教委の担当セクションがどこになるのかなど、適宜連絡、連携をとって進めている。

清水委員外議員

① いじめ防止義務違反と言われているが、職員会議で本当に報告されていたのか。私の経験した中では、いじめの相談を受ければ、親と教師の連絡帳に書くなどいろいろな形で残っているものである。今回は全くそういうものがない。職員会議の会議録もない。あり得ないことだと思う。話し合われていたのであれば、職員会議の議事録や担任や教頭のノートが残っていると思う。そこは市教委としてもきちんと把握をしないと、この裁判においては反論も何もできないと思う。相手がいろいろなことを立証してくるときに、知らないでは済まされれない。当時の教師のメモや議事録類をきちんと整理する必要があると思うが、考えを伺う。また、高校などについては、いろいろと配慮をお願いをしたい。また関係市教委には協力を求めることをお願いしたい。

② 裁判の活動の中心は教育委員会だと思うが、市長部局との関係はどのようなになっているのか。

教育長

① 職員会議の議事録等については遺族からの申し出もあり、我々も調査をしているが、どの時点でどういうことが話し合われたのかという程度のものしかないと伺っている。その部分については、信用しているところである。今清水議員が言われたような担任のメモ等については、どの点が争点になるのかということもあるので、その辺は慎重に判断をさせていただきたいと思う。

② 市長部局との関係だが、総務部のほうで組織をつくるということで確認をしている。その辺は連携しながらやっていくように進めている。

吉川課長

① 職員会議の件だが、職員会議という形ではなくて、当時この大きな事件が起きた後の対応ということで、生徒指導対応、保護者対応など毎日のように分刻みで校内打ち合わせをしたり、その後の対応ということで取り組んでいた。この事件に対する打ち合わせということをしていたわけで、職員会議という形でやっていたわけではない。本来職員会議をした場合は、記録を残さなければならないことになっている。打ち合わせのほうの記録が不十分だったということは否めないで、どの程度の回数を実施して、どのような内容が話し合われたのかということは、遺族の求めに応じて情報は提供している。

委員長

他に質疑はあるか。(なし) いずれにしても訴状が届いた時点で委員会を開きたいと思うが、それまでもマスコミ対応などしっかりとやってほしいと思う。

(1)については報告済みとする。(2)について説明願う。

(2) 学校評議員会議の意見提言について

水林室長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員長

説明が終わった。質疑はあるか。

関 藤

ここに書かれているのは、学校評議員からの意見提言ということで押さえていいのか。学校評議員の方々は各小中学校に対して、月に何回、年に何回出向いたり、校長先生と話し合わなければならないのか。規定みたいなものがあるのか。それとも校長の呼び出しなどの要請に応じて行くものなのか。

水林室長

現在私どもで確認しているのは各学校で年3回、この評議員を定期的で開催して、その結果の報告をいただいている。校長が直接学校に来るような依頼をし

吉川課長 ているという部分は確認していない。
評議員においては回数的な義務はなく、校長が会議を招集する。現状は3回という報告だが、回数の規定がないので、評議員会議で全体会議をする場面もある。例えば1人の評議員を呼んで意見を聞くことも可能なので、校長の一定の方針に沿って進めることもできるようになっている。そのほか学校行事である入学式、卒業式、運動会、参観日、発表会といったときには案内をしており、参加もいただいていると聞いている。

関 藤 ここに出された内容について学校運営に反映させるということだが、何か具体的に学校運営に反映させている事例みたいなものはあるのか。

委員 長 その質疑を進める前に確認をする。この書類に具体的事例と書いてある。これは単なる個人的意見を並べただけだと思う。学校評議員会議でいろいろと詰めて、こうしたほうがいいという提言のものだとすれば、今の質疑とかみ合う。もしただの意見だとすれば、今の質疑とかみ合わなくなる。その辺を先に確認させていただきたい。

水林室長 きょう示したのは、平成20年度の各学校評議員会議を集約したものが結果として私どものところに出されたものである。それを載せさせていただいた。

委員 長 集約をしたというのは、皆さんの強い意見としての集約なのか、ただ単純にだれかが発言したものを羅列したものなのか。そこのところで大分違うものになる。

水林室長 評議員からの一人一人の意見である。

関 藤 一人一人の意見として出されているが、学校運営においてその意見を実際に実行したものがいいのか。あれば示していただきたい。

水林室長 これらはいくまでも平成20年度の各学校評議員会議であり、実際には早急に対応しなければならないものもあるが、来年度の学校経営の中でこれらの改善策が行われるものと思われる。1年前になるが、この会議により改善された例としては、小学校では学習指導の面での改善であり、算数のチームティーチングの実施学年を拡大したり、朝学習時間を確保、そういう具体的な取り組みをした学校もある。また中学校では、チームティーチングの活用や長期休業中の学習相談、学習的な充実を図った。授業力の向上の面では、公開研究会の積極的な取り組みなどの事例がある。学校としてはこれらの意見をもとに改善を図ったと聞いている。

委員 長 他に質疑はあるか。

窪之内 ① 書き方がいろいろあるが、委員が書いたものなのか。こういうふうにしてほしいと書いてあるのは委員だと思うが、こうしますと書いてあるのは、委員が言ったり、書いたりするのはおかしい。委員がこうしてほしいと書き、それを受けて学校がこうしますという結果を書いたならわかる。中身を見るとそういった内容がばらばらである。委員の意見なのか、それを受けた学校の意見なのか、この書き方だと違和感がある。先ほどこれらは委員の意見だと言われていたが、そうではないと思う。どうなのか説明願う。

② 関藤委員が質疑をしたことに答えられていなかった。私は学校評議員と参観日や運動会などの学校現場で一緒になったりすることがある。地域において子供たちを見ているので、学校評議員だからといって学校に行かなければならないということはないと思うが、学校行事等を含めて学校現場に足を運んでいる回数をつかんでいれば答弁願いたい。

水林室長 ① 記載の仕方がまずいと思うが、これはあくまでも評議員からの意見である。要望的な意見と学校ではこういったことをしていいという意味の感想ととらえて書いてある。あくまでも要望に限らず、今現状学校でやっていることに對してこれはいいと思うのでこれからも継続してほしいという意味のものを記載させていただいた。

委員長 ② 学校行事等に足を運んでいる現状までは把握していない。
他に質疑はあるか。(なし)
(2)については報告済みとする。

委員長 2 その他について
アンケート結果を配付をしていただいた。説明願う。
吉川課長 (別紙資料に基づき説明する。)
委員長 説明が終わった。質疑はあるか。
井上 教育行政と行政は表裏一体である。そういう中で、この2回のアンケートは不愉快である。ようやく出してくるような学校評議員なら要らない。そもそもそういう学校評議員に自覚があるかどうかの問題である。自分に関係ないという結果が出ている。そこら辺をきちんと押さえて、間違いのないジャッジをくださなければ、私はそれなりの行動をとる。その辺についてどう思うか。

教育長 保護者アンケートを含めて行ったものだが、決してこの結果だけで物事を判断しようとは思っていないし、全体の数字と学校別の数字とでは当然地域事情や学校規模によって違うということもある。この先適正配置の計画を進めていく上で、地域の方が何を不安に思っていたり、何を要望していたり、その地域差がどのような形で違っているのかということを適切に把握していく必要があると思っている。このことだけで全体がうまくいくとは毛頭考えていない。そのための参考にしたいということで、今回あえて無記名でアンケートをさせていただいた。アンケートのやり方にもいろいろあり、それぞれの目的によって記名式にするのか、無記名式にするのかが変わると思う。今回委員会としては、率直に市民の意見を聞きたいということで、記名式だと特定されるのが嫌だということがないように、またこれから市民に説明をしていくときに何を説明しなければならぬのかをきちんと把握したかったので、サイレントマジョリティーを把握する必要があるだろうということで、無記名式の形で行わせていただいた。そこは理解をいただきたいと思う。また学校評議員の回収率が低かったということについては、委員会の取り組みがまずかったとも思う。その部分については、一生懸命されている学校評議員に迷惑をかけてしまったと思う。今後十分に気をつけたいと思う。

井上 地域意見をきちんと聞いて進めるべきだと思うが、考え方を伺う。
教育長 もちろんそう思っている。これまでPTA役員の方にも話を聞いたときも、私どもが提案をするという形ではなくて、実際にアンケートだけではわからない保護者の生の声を聞きたいということもあり、役員と直接話をさせていただいた。そういうものを土台にして計画をつくり、市民に説明をしていく上で、委員会として基礎的情報を得たいための実施である。この結果等を含めて、きちんと適正配置計画の案を示し、それぞれの地域で説明をしていきたいと思う。そういった場所を確保したいとも思うし、場所によっては1度、2度では終わらないところもあると思っている。

井上 あくまでも教育行政だけで走らず、行政との関係をきちんと持って進めるよう

- にお願いする。
- 委員 長 他に質疑はあるか。(なし)
- 窪之内 今適正配置の話が出たので質疑する。適正配置の案が提出される時期がおくれている。大体教育委員会内で協議が整ったという話も聞こえてくるので、来年早々には報告されると受けとめていてよいか。
- 教育長 協議会という形の中でさまざまな議論をしている。新タッグ計画との関係も当然あるので、市長部局とも詰めている。ある程度委員会の中身が固まらないと、財政協議や市長部局との協議が整わないので、そういった状況において進めている。予算時期もあるので、何とか皆さんにお示しできるものをつくりたいと思っている。
- 委員 長 他に質疑はあるか。(なし)
- 今回のアンケート回答率は94.1%、51人中48人である。あれだけ言ったのになぜこの数字なのか理解できない。教育委員会の学校評議員に対するとらえ方、どういう人がいて何をしてもらいたいのか、そういったことをどのように考えているのか。学校評議員を首にするということではなくて、あれだけ言ってこれだけの期間があったのになぜ3名の方が書いていないのか理解できない。今後の注意事項だが、学校評議員が校長先生の応援団だとすれば、校長先生が責任を持って集めるというような形づくりが必要だと思う。それともう一つ。このアンケートの結果の表題だが、何のアンケート結果かわからない表題になっている。こういうのはいかがかと思う。いろいろと書類が煩雑になってくるので、その辺の協力をいただきたいと思う。
- 3 次回委員会の日程について**
- 委員 長 次回委員会は正副委員長に一任願う。
- 以上で第16回総務文教常任委員会を閉会する。

閉 会 11:55